明治二十二年十二月一日印刷
明治二十二年十二月三日出版

（非賣品）

婦人衛生會雜誌

第九號

私立
大日本婦人衛生會

Digitized by Google
Original from UNIVERSITY OF MICHIGAN

婦人衛生會雜誌

第九號

目次

婦人の美　中濱東一郎君

口腔一斑　荒川脩君

産婦及ひ蓐婦の養生　櫻井郁次郎君

小兒ノ營養　緒方正規君

本會錄事

Digitized by Google

Original from UNIVERSITY OF MICHIGAN

婦人衛生會雜誌第九號

明治廿二年十二月三日發兌

○婦人之美（六月例會講演）

中濱東一郎君口述

今日は妙な題で御坐いまするが、聊か氣の附いた事が御坐いますから其れを申し上げ樣と思ひます。抑も美人と云ふ事に就ては人の說が種々御坐います、併し智識の有る男子の申しまするには、美人とは德操と智識と健康と此の三つを備へて居らるゝ婦人であると申す事ですが、是れは私も確かの說と思ひます。通常美人とは容色美にして流行の衣服を着用するものを申しますが之れは大きに適中らない齟齬したとにて容色の美と云ふ點に於ては日本の人の美と考へる所は、外國の美人と云ふのと違つて居るとがあります、私の眼から美人と見ゆるのも外國人の眼には美人と見へない、私の眼から美人と見へぬのが却而外國人の眼から美人と見ゆる事も有ります。して見ると美人則ち容貌の美くしいと云ふのは世界中いづこに往きても一つの價値と云ふとは出來ません、其の國々の習慣等に因りて違ふので有ります。例へは日本では一般に丈のすらりとして居ります極く瘦方の人を美人と云ふ樣です、併し西洋殊に獨逸、佛蘭西あたりでは、今申しましたような美人は却て美人でないと言ひます、獨逸邊の美人と云ふのは、體の大きいしつかりした頰の赤い日本で云へは餘り美人でない婦人を美人と云ひます、支那の婦人は足を少さくする風俗がありて日本人の眼で見れバ不具者としか見へないのを美人と云ふて尊敬して居ります、私の存じて居る西洋の婦人に、頰の赤い肥太つた方がありましたが、餘り勉强した爲めに顏色の赤みも拔け肉も瘦せました所が、「妾は此の夏休みに地方の旅行をして美人に成つて歸へつて來樣と云ひまし

た」其理由は元の樣に肥太つて歸りたいと云ふので、日本婦人なれば其の反對で、肥太つた婦人なら却而瘦せた方を悅ぶので御坐いませう、只今申したのは開化した國だが、未開の國に往きましても其の土地に因つて矢張り美人と云ふ意味が違ひます、例へば御承知の「アイノ」の女は結婚すると皆な頰に黥します、夫れは結婚した婦人を美に見せる爲で、結婚をしたと云ふ標表計りでは有りません。

又衣服の飾り抔も其の通り、日本で大增美しいと思ふのが歐羅巴では夫れ程でなく、日本で格別と思はぬのが西洋では珍重する事が有ります、又流行の度毎に世の好みが色々替はり、殊に衣服の流行は日本では左程甚た敷はないが、西洋では實に恐ろしき程で、昨年の流行は既に今年の流行でなく、先月の流行は今月の流行で無く、其の流行に遲れまするを縦へ美人でも美くしくないと申して、皆な爭つて新奇の流行をなします。シテ見れば物の宜い計りでなく、流行に依て其の美が替はると云ふのですから、衣服の美の如きも矢張り流行の美で普通の者とは云はれません。

「アレキサンドリヤ」に參りまして其國の貴婦人の風を見ると、餘程妙な事をやつて居ります。アノ通り熱い國で冬も寒くない位いですが、其國の美人は日本なれば冬被る樣な頭巾を常に被つて居り、チコン頭巾とも云ふ樣な眼を少し現はす丈けで外は皆な掩ふて居ります。夫れ丈けあればまだ宜しいが、丁度鼻の所に金屬の箍の樣な者を箝める風習で、少し上等の人なれば頭巾を被つて鼻の所に其の妙な者を置かなければ相成らぬと云ふ事です。是を東京抔につれて參りますれば、美人所ではない、變な者が來たと云ふて跡を跟けて歩くで御座いませう。

「スマトラニアツイ」と云ふ所が有ります、其地の若い

女は踊りを躍る時に妙な事を仕ます。前額、鼻翼、耳指等に環を附け、指は手足共に其爪を赤かく染めますが、若しそう云ふ飾りを仕ないと美人の仲間入りが出來ないと云ふ事です。南洋諸島の娘は手、肩、舌端、四肢に黥しヒンドゥの婦女は齒を黒く染め又巴里では大抵の婦人が白粉を附けます。巴里は世界流行の元で、衣服抔も總べて巴里より起るので、歐羅巴中一番に華美な所で有りますが、其の婦人が外を歩行くに皆な白粉を附けて居りますが。英吉利や獨逸で白粉でも附けて居れば笑わるゝのに巴里丈けは是れが流行で有ります、白粉が無ければ美人の仲間に這入る事が出來からで有りませう。又「ダマスカス」の婦人は一層妙な事を仕ます、双眉毛の間に眞黒の棒を引いて、眉毛を一の字にし。又下腭から耳の上迄黒い線を引き頬には赤い何だか妙な者を附けます。右の樣に美人と云ふても地方によりて容が替はつて居りますから、只今申した衣服容色の美は、世界通用の者でなく、習慣や流行に由つて違ふ者で有ります。語を換へて言へば今日美人でも明日美人でないとが有る、昨年の美人は必らずしも今年の美人でない、歐羅巴の美人は必らずしも日本の美人で無い、斯くの如き美は總べて外形に屬し、土地を替へ時を替ゆるに從つて變化する者であります。

夫故に具に美と云ふのは、知識と德操と健康とに在るので、是れは世界一般日本でも印度でも歐羅巴でも皆な一樣にて斯うして考ますると、人間の美と云ふ者は外貌計りでは美と云ふ事は出來ません、身躰の健康とそして內部の心掛けと此の二つで有ります。サウすると如何程容貌が美くしくても醜婦となる事が有り、醜婦でも亦た美人となるとが出來ます。是れ迄は美人の美と云ふ事ですが、是れからは衛生上必用の美人に就いて申します、德操と智識とは衛

生會の與る所でないと思ひますから畧しますが、衛生上から美に就いて云へば是れも大層申す事が有るけれども、一般必要の事は外部即ち皮膚の事です、故に是れより私は皮膚の衛生上に就て述ませう。

皮膚は皆様も御承知の通り、鳥渡見れば薄い皮で極く單純な者の様に思はれますけれども、是れを能く顯微鏡で調べますれば、肉眼で見た様な容易い者では有りません、種々複雜したる者から出來て居る、即ち皮膚には汗の出る機械や、脂肪を作る器械もあり又血液の管と、水脈と云ふて無色の液の流通する管もあり其他神經もあります此の如く皮膚の構造は複雜して居りますれば、其の作用も亦た複雜した者で、或人は云ふ「風邪は四百四病の始りである」と、是れは子供の時から能く聞く事ですが、皮膚の働きの惡敷爲めに風邪を引く事がある、是れは醫者の申す寒冒を起すので有ります。今日の醫者でも種々の病の起る源は寒冒であると申して、古き醫者の四百四病の始めと云ふのは間違つては居りません、但し病は四百四病位でなく數萬もあります右の如く皮膚は複雜した機關で大切で有るから何人も注意を怠らぬ様に仕なければ種々の病原となります。

皮膚を看護する爲めに種々の藥を用ひ又賣藥も種々ありますが是れは世界中何地へ參りましても皆有ります、イヤ只今有る計りでなく羅馬時分にも有つたので羅馬の古い所の化粧の様子を聞けば、妙な事を仕ました、夜る寢る前に豚の脂や鯨の脂杯から製した膏藥を顏に塗つて寢るのです、然して翌朝は洗い落します。羅馬の貴婦人杯は此膏藥を洗い落すに巧なる奴隷を雇ふたるともあります。扨後世風習の變遷に由つて、伊太利では顏に塗る事を止めて布帛に膏藥を塗つて面と為し其面を被つて寢、翌日の朝之を取りましたが、是れは決して皮膚の艶を良くする

事が出來ませず、却而身體の害になる者て、今ては伊太利にもありません。

只今から百八十三年前に九十歳の高齡に迄達し九十の時に死なれた「ニノン、ド、レンクロス」と云る婦人(是れは佛蘭西の人です)がありましたが其人は死ぬ迄顏が奇麗で艶もよし彈力も有る、何うしても九十の婦人とは見へない、餘り何時迄も艶が美いから艮人が不思議として是れを尋ねまして、何か秘傳が有るだらうと言ひましたら、婦人が曰く夫れは有る(此の秘傳は獨り此の婦人が申した丈けでなく只今では醫者も皆な申して居る事で、今日は別段ですから皆樣に此の秘傳を御授け申さうと思ひます。)則ち桶一杯の水とフランチルにて。妾は若い中から雪の朝でも水とフランチルとを以て顏を洗ひ、決して外に秘傳のある事では無いと云ふたそうです。秘傳とも云へば人は皆な藥が咒術でもあるとかと考ゆる方も有るかも知れませんが左樣なるものは一つもなく只冷水にて冷水は人身上に實に必用の者て、此の節は醫者も能く夫れを申しますが、種々ある藥を用ひたよりも餘程功能が多いと云ふ事は、掩ふ可らざる事て、今日皆な人の存じて居る事で有ります。

是れから皮膚の養護法に就いて申します。皮膚の看護に一番宜ろしいのが二つ有ります。度々皮膚を洗ふのと下着を換ゆるのです、約言すれば度々湯に這入り、衣服を着換るのです。皮膚に洗滌しまするには御承知の通り二た通り有つて、全身を洗ふのと一部分を洗ふので有ります、即ち毎朝顏を洗ふのは寢む氣を醒すのでなく、眼やにを取る計りでなく皮膚に塵や脂肪が溜まつたり抔するのを取るので、即ち健康を保つ一つの手段で有ります。通常の水に這入るのは、日本では餘り用ひませんが、温かい國、熱帶の地方或は歐羅巴抔では、男女共好んで水に這入

ります。只水に這入つた丈けで奇麗になる譯には往かない、そこで度々衣服を着換ゆる事です。印度の「ヘンドスタン」の民は宗教上の教に由て、毎日一遍づゝ水浴致し、「ガンジス」河の邊に住で居る所では毎日此川に入ります、殊に熱帶ですから冬でも水をあびます、少なくとも毎日一度づゝは水に這入るから至つて奇麗さうで有りますが私も度々此等の人に會ひましたが身體に一種の臭ひがあります、夫れは服裝の臭ひですたゞ水に這入る丈けで衣服を着換ゆると云ふ事が御坐いませんから、夫れで衣服に汗や垢がたまりて臭ひがするのです。皆樣方も御承知の通り衛生學の創始と云ても宜しい「ヘッテンコウフエル」が、人間の替りに襯衣が度々湯に這入ると申しましたが、御承知の通り、歐羅巴人は湯に這入るのは少くない獨逸人抔は度々湯に這入るとは申しても月に一遍です、中等以下の人なれば一年一遍這入るか這入らぬ位の者です、又た生れた時に入れて貰つた丈けで、まだ湯に這入つた事はないと云ふ樣な職人抔も有ます。日本人なれば毎日の樣に、少ない人でも三日め四日め位には這るが、今申した歐羅巴人抔は湯に這入らんで能く健康で有ると思ふが、歐羅巴人は湯に這入らぬ代り、シャツ計りでなく下着から取り替へます、歐羅巴では上衣は汚なくても下着さい淸潔で有れば宜しいと云ふのが彼の國の風習です。巴里抔では夏冬共に毎日一度づゝシャツを着替る人か多くあります湯に這入らぬから皮膚に塵がたまります、皮膚にたかつた塵が毎日交換する下着に着きまするから、自分は湯に這入らんでも、下着が湯に這入るから恰も自身が入浴したると同じで有ります夫故「ヘッテンコウフエル」が言はたのは實に適當したる言葉で有ります。

世界中、此の日本人位湯の好きで這入る所は無い、

土方職人抔は朝夕這ると云ふ事ですが、併し、日本人は西洋人程に下着を取り換ゆる事が度々で有りません。けれ共夏行水を遣つて、洗ひたての浴衣を着る抔は、是れは日本の美風として誇つて宜しい事と思ひます。殊に小兒です、小兒の皮膚は英敏者で、大人には少しも害は無いでも小兒には病の原因となる事が御坐います。且つ小供の衣服には色の附いた布を着せるのが一般ですが、夏汗をかひて、衣服を染めた色が皮膚に付けば、是れよりして種々の皮膚病を起すとが有ります、故に小兒は度々湯に入れるのが大切で、少なくも毎日一度づゝは入浴させるが宜しい。

然らば湯に這入るには、其の温度は何の位と云ふ問題は度々尋られる事ですが、熱湯に入れて宜しいか微温湯が宜いか、一般に申せば歐羅巴人は日本人に比して微温を好みます、日本人なれば寒む氣が仕ます位の湯が丁度宜しいと申して居ります。歐羅巴の湯屋ではあなたは何度の湯に御這入りに成るかと問ふ、客は何度の湯に這入ると云へば、客の望み通りの湯加減にして呉れますから眞に重寶です。其の加減は、手を湯の中に入れて掻き廻して見れば、大抵熟れた人なれば何度と云ふ程合が極められます、且つ大抵の湯屋には湯に用ゆる寒暖計が有つて、夫れで度を極めますから自分の好む通りの温度の湯に這入る事が出來て、眞に便利です。併し日本の湯屋では然うは往かない、熱湯の好きな人も、微温湯の好きな人もあり、自分の好きにする事も出來ないから、是れは自宅の湯丈けに行ふ事が出來る而已です。扨何の位の温度にすれば身躰に宜しいかと云へば、是れは一言では極められない、人によりて種々習慣があります御承知の通り神田ッ子は熱湯が好きで、鷄卵のゆだる程の湯に這入る、是れは生れ落る時から

Digitized by Google　Original from UNIVERSITY OF MICHIGAN

熱湯になれたからです、若し微温湯に慣れた者が、こんな熱い湯に這入れば必らず病氣になります。故に醫者の方で幾度と言ふとは出來ませんが、詰り自分に慣れて居る度丈けにするが宜しい、熱湯に慣れた人が、稀に微温湯に這入ると、風邪でも引く位の者です、故に、先づ習慣の外は格別其の血液の温度と違はないのが宜しいと云ふ丈けて有ります。人間の躰温は夏冬共格別の相違は有りません、冬は寒いから人間の體も冷やかでわらう、夏は空氣が熱して居るから身躰の温度も高いだらうと思はれるが、冬の寒いのは躰の外側丈けで、内部に於ては夏冬共左程に差の有る者では御坐いません。血液の温度と云へば、卅七度(攝氏)前後で御坐います、驗温器は華氏攝氏列氏と三つ有りますが、近頃日本では攝氏を重もに用ひますから、攝氏の度で申し上げて置きます。

偖て湯には何の位長く這入れバ宜しいかと云ふに、是れも前に申した通り人々の習慣に因つて違ひます。又温度の高低に因つて違ひます、熱湯は孰でも長く這入つて居る事は出來ませんし、微温湯なれバ長く這入つて居るとが出來ます、是れは其人々の慣れに任かす方が宜しい、詰り熱湯の人は短く微温湯の人は長く這入つて居るのが宜しい、又餘り時間が長いと浴湯の際病氣を起すとか有ります、年寄杯は折々卒中に成つて、大變の騒きを爲し、危險に陷いる事が有る、故に餘り長いのは惡るいから、何んでも先づ度々出はいりをするが宜しい。又入浴の際に水を掛ける習慣のある人か御座います、殊に西洋人抔は水を掛ける樣です、出ると直ぐ水を掛けれバ、始めは心持が惡るいが、後には前の氣分の惡るかつたよりは一層快くなる。此の事に就いて能く利害を云ふ人が有りますが、是れも其の人の習慣で、豫てより

慣れて居ればは衛生上宜敷いのです、湯に這入りました後に水を掛けても何とも無き程に皮膚の强い人は風邪を引く樣な事もなく、却て躰の爲めに宜しい、併し是れも慣れない人が若し水の樣な冷たい水をあびましたならば、忽ち病氣になります。故に成る可くなれば水を掛けて何んともなく、身躰に害のない樣に冷水に慣れるが宜しい、併ながら無理に水を掛けなければならぬと云ふ事では有りません。且又冷水を以て顔を洗ふのは宜しい、殊に貧血の婦人逆上性の人杯は、冷たい水で顔を御洗なさるのが宜い。是れ迄申したのは温浴、即ち通常の湯で有りますが、是れより少しく冷水浴の事を申しませう。○冷水浴は水の中に這入るのです、夏の暑き時分に於ては水に這入つても少しも害はありません、却て害の無き而已ならず、健康の爲めに宜しい。併し冬は如何にと云ふと夏から這入り續いた人が浴するなれば至極宜しい。身躰が丈夫に成つて居るから、寒冒に罹る患もなく、身躰の爲めに至極宜しい。併し是れも習慣で、慣れない人が寒中冷水に浴する事杯は隨分苦しい而已ならず、爲めに病氣を起しませう。私の存じて居る人で、十五六年爾來湯に這入つた事はないと云ふ人が有ります、毎晩風呂桶に水を汲んで置きまして、翌の朝起ると直ぐ其の水の中に飛び込むと云ふのです、冬も此の通りで、朝起きて水の中に這入るのが一番樂しみだと云ひ、或る時は氷が張つて居るともありますが、此の氷を斷ち割つて這入る、全躰其人は神經性の人で有つたが、當人自から申すに、私が毎日水の中に這入るのが藥で、是れ迄生命も恙なく有るが、通常の人の樣に湯に計り這入つて居つたならば、是れ程に丈夫では無かつたらうと申したが如何にも尤の事です。

日本には少ないが、海水浴は最も必要の事です、是

れは躰の清潔計りでない御承知の通り海の水には食塩があり又海濱なる鎌倉七里が濱の邊でも激しく波が衝る、其浪に躰を撲たれると非常に皮膚を刺激して、烈敷い波なれば痛ひ位です、其故海水浴は清潔の計りでなく、皮膚の働きを大いに増すものにて身躰の機能に、餘程の功能が有もので御坐います。

身躰一部の保護を申しますれば、毎朝顔を洗ひ、毎日幾度も手を滌ひ足を洗ふて寢る杯は、日本では大抵の家に爲して居る事で、甚だ宜しい風習です。夫れから見ると獨逸杯ハ不潔で、去様の事ハ致しません。併し英吉利に參ると大變に違つて、例之は倫敦の旅店にては毎朝各個の部屋に湯を一ぱい持て來ます、其の用ハ身躰を洗ふが爲めです、又た足を洗ふに用ゆる鑛風の桶か大抵の部屋に備へて有ます、又家族の室内にも此の道具が備へて有るが、獨逸では決してソンな事は有りません、去れば英吉利人は日本人と比較すると湯に這入る度數は少ないが、身躰を洗ふ度數は多い位です。毎朝水で身躰を洗ひまする事は、至極結構で水で胸なり背なり洗つて、其後乾いた手拭を以て赤くなる程摩擦るのは、神經性の婦人或は貧血其他皮膚に病の有る人に利益なる者で此法を施すのは夏あれば至極宜しいが、冬は中々容易の事では有りませんが、夏からして始終冷水で慣らして置けば冬でも毎朝身躰を拭なければ、終日氣分が惡るいと云ふ程になる者です。

然らば毎朝顔を洗ふには湯が宜しいか水が宜しいかと云ふに、先刻述べたる婦人の申せし如く、水が宜しい。一説に水だと顔が皹跡と申しますが、然うでない、若し冷水が皮膚に害があれば、歐羅巴の婦人は皆酷い顔になり、皆な皹跡て仕舞はなければ成りません、けれ共歐羅巴人は水を遣つて湯は用ひませんが、アノ通り肌質細かくある。併し冬になり氷る

Digitized by Google　Original from UNIVERSITY OF MICHIGAN

様な冷たいのは餘り宜しい共思はれぬ、堀井戸の汲たての水位が丁度宜い。併し汲みたての水が無いなれば、矢張り氷の張つた水でも宜敷いから、湯を加へ少し温めて用ゆるが宜敷う御座います。又日本では腰湯を遣う人も有りますが、是れは宜しい事で、毎朝顔を洗ふのと同じく必要です。

是れ迄は入浴に就ての注意ですが、偖て日本でも此の頃は大増に石鹸を用ひます。石鹸と云ふ物は、皮膚に害が有るや否やと云へば、石鹸にも御承知の通り種々ありて、價の高下に依らず善惡が有ります、全躰石鹸は脂肪と夫れからアクの種類で化學的に混交した物ですが、注意しないと、石鹸の性質に未だアクの殘つて居るのが有ります、如斯きものは顔がアレ手がアレますが、是れは勿論宜しからぬ事です、然らば如何にして宜敷い石鹸を擇ぶべきかと云に、是れが難しい事です。匂ひでも。亦價が高くても、眼で視ても解かりません、夫れ故私抔は石鹸を新奇に買はふと思へば、先づ一個の石鹸を買て使用して試み若し顔や手かアレず又良く不潔を除去すれは宜しいものにて一ダースあり半ダースなり買入れますが一番容易き試驗の法で、買う度毎に一々試驗所に持て往て試驗して貰う事も出來ませんし、又値の安いので善いのも有り、價の高くて極めて不可のも有る。先日私が巴里から貰ひました石鹸抔は、恐ろしく値の高いのですが、日本で三四錢位の物の性質よりかもつと惡るい位です。石鹸は匂ひを嗅ぐのでないから、匂ひの善惡では解からない、是れで判斷するのは違つて居ります。

又日本の御婦人は糠と云ふ者を遣ひますが、是れは皮膚の害にある者ではない、皮膚を滑澤ならしめて心持ちが宜しい、併し脂肪を落す事は出來ません故之を除には石鹸の方が宜しい。毎日脂肪が躰から出

て、其脂肪の上に塵がたかる、故に其脂肪を取らなければ成らぬのですが、夫れには何うしても石鹸が入用で、能き石鹸を用ひるのは、皮膚の衛生上必要な一つて御坐います。

湯に這入つた後ち、化粧をする事、此の化粧も多少は宜しいが、余り白粉を附たり、或は東京では余り見當りませんが、中國筋では中等以上の人でも憚りなく髮を染めて居ります、夫れは衣服を正敷着るのと同じ様に思つて居るが、併し髮染藥が其の皮膚の間から見へるのは甚だ見惡くい者にて單り醜くき而已ならず健康上に更に益の無き者で、却て不健康の源に成ります。白粉に就て鳥渡申せば、日本の白粉の中で鉛で製造るのは害が有ります、併し此の頃は鉛でない害の無い物が出來ると云ふ事ですが、米の粉や温飩の粉は害が有りません、又唇のアレたる抔する人が有るが、此等の人は石鹸を遣うと益々酷く成る事が有るから、洗滌した後に少しく皮膚を滑澤にする物を附るが宜しい。夫れに一番宜しいのはリスリンです、リスリンは水で洗へば直ぐに溶けますから洗ひ落すに便利でありますワセルインを遣う人も有るが、ワセルインは水には溶け惡い者です、此の位の化粧にして、他の物は余り附けぬ法が宜しい、紅粉は勿論毒でない、色の惡るき人抔は御附けなさるも御隨意だが、御勸め申す程の物では御座いません。

新聞抔に種々廣告がありてやれニキビの藥又は顔の色を艶はしくする藥など〻大業に書立るものがありますが如何なる大家でも、藥で之を愈す事ハ六ケ敷い、ニキビは長い病氣で十日や廿日藥を附けてもなをる事の出來ぬ者で、ニキビを愈すには適宜に石鹸と冷水で滌ふのが一番宜しい。昇汞とか云ふ大層毒になる物抔を加へたる藥が有るが夫れは大變の毒て

すから御注意成さらなければいけません。又カンコウ抔と云ふ藥を買つて歩行く人も見掛けますが却て是れが爲めに皮膚の病を起しますから、是れも御注意致さなければ成りません。

以上ハ婦人の美に就いて必要なる健康法の一部分を申した丈けて御坐いますが、今日は是れ丈けに致します。

○口腔一斑　（五月例會講演）

荒川脩講演　佃與次郎筆記

私は是迄御會の御樣子も一向存じませんで、突然今日皆樣方の前に立ちて、御話しするは、無理なるは勿論、御會は是迄大抵學士とか、博士とか、孰れも學位を占めたる方々が、各其得たる所の御話しもありました跡なれば、今私の如き者か、爰に出て申し述べき程の事も別に御座ひません、併し幹事さんの御依賴には、是迄衛生上に關係したる御話しは、數多あれども口腔部の事に渉りたることは未た無いから其事柄を話して呉よとのことて、御坐ひましたか、私は演說なとは甚た不慣故、再三辭退を致したけれども、遂に御許しかないから、不得已訥辨なから、御依賴の通り、口腔の事に就きて御話し致します、扨私共の身躰上に取りて、何處が一番入用で、何處が一番不入用だと云ふ所が有ましようが、眼は物を觀るに必要、耳は音聲を聞くに必要、手は物を攫むに必要、足は歩むに必要なれば、總身一として不用な所はありません、就中一個の名稱にして數用を兼ぬるものは、何にと申せば今爰に揭げたる口腔部でありましよう、其器械こそ小なれども、其用は甚だ廣大で御坐ひます、先づ口の司る所を擧て申せば、味能、發音、說話等に必用なるは無論、身躰を榮養する所の食物を此に取らざれば、他に仰ぐ場所はあり

ませんから、尤も注意のし所で御坐ひます、一躰各人の食事するときに當り、齒が不健康ならば十分に咀嚼するとが出來ません、咀嚼するとが出來ませんなら、自然其影響が、身躰上に及ぼしましよう、そこで昔よりの諺にも、口は禍の門病の母なりと申し、が、然し口は禍なりとのとは今更に切要なければ之をば省き只病の母と云ふとに就き、味ふときは實に道理のあるとで御坐ひます、何となれば、口ハ種〱の食物を喰ふ所なれば、若し悪るい物を喰ふときハ、直ちに四肢百躰に害を及ぼすとあり、又世に胃病と稱するものハ、能く子々孫々迄にも遺傳するものなるが、是も其初め祖たるものが必ず口腔中に病ありて、食物を十分に咀嚼する能ハざるより源因せしならん、故に口ハ病の母と云ふも誣言でハ御坐ひません、然らば平生愼むべきハ尤も此口腔で御坐ひましよう、然して又食物を取るにハ齒を以て之を碎くハ、誰も御承知なれども、其食物を圓滑にして之を咽に下すは、何の働きに依るかと申せば即ち唾液と云ふものが、有りて其働きを爲すもので御坐ひます、而して此の唾液と申すハ何處から涌くとなれば、耳下に耳下線と名づくる線ありて、上腭の大臼齒の外部に向て排泄し、も一つハ下腭に腭下線と云ふて、舌下に排泄し又モ一つハ舌下線とて舌の下方數口より排泄す又唇部、頰部等より分泌する者がありますが、之を粘液と申しますが、是等をも合稱て即ち唾液と申します、此の唾液が口腔中を濕し、其部の器械を自在に運轉する樣になりて居りますから、人間が味能、發音、說話等にも一向差支がありません、併し分外に說話り過すときハ、咽喉が乾いて参ります、其れ故る世間の人が演說などするときハ、必す其傍らに水を備へ置くハ即ち之を飲んで其唾液の不足を補ハしめんが爲めで御坐ひま

Digitized by Google　Original from UNIVERSITY OF MICHIGAN

す、然し又此唾液ハ物の感情に因て、其排泄に自ら多少增減が御座います、先づ其例を擧れば、人々平常己の嗜く物を見るときハ、之を喰はぬ先に唾液が涌き出るけれども、嫌ひある物に於てハ然るとがありません、又た酸味なる物に於てハ、之を見ずも、只其噺しを聞たるのみにて、唾液が多量に涌出るもので御座います、そこで昔し戰塲に於て、或る機轉に功みなる大將が、其手下の兵卒が咽を乾したる塲合に當り其渇を止めん爲め、彼の梅林の頓策を設け以て其喝を凌ぎたりと申しますが、是にて唾液は物の感情に因て其排泄に多少增減あるの證據は、御解りて御座いましよう、然して唾液の必要は、如何にと申せば此唾液は人々毎日喰ふ所の食物を克く混和せしめたる上にて、之を胃に送り、胃之を受て、遂に發酵作用と云ふ働を起し、其消化を容易なさしむるものにて御座ひます、若し此唾液の働が不充分でありたらんには、食物を胃に送り入るも其消化果して不充分なるは、疑ひもなきとて御座ひますが、是が即ち胃病の原因となるので御座ひます、日外或人が演說を某雜誌に於て閲讀致しましたが、其中に或る病人は香肴で御茶漬と云ふ好みて其れを喰したら、能く治りが付て其れから段々達者に成り遂に生命を救ひ上げたから、習慣も遽かに改ためられぬものと云とが有りましたが、是れは全く世間稀有のとで、元來御茶漬杯と申すものは、唾液の良く混和せざるもの故ゑ、胃に害を及ぼすから成る可く、衛生上に注意方々は、香肴で御茶漬などは、廢止する樣に配らあければありません、然して又唾液の成分に就て、御噺申せば其成分は即ち水。有機質。硫職化ポッタース。燐酸曹達加利麻倔涅矢亞。格魯兒化曹達及ポッタース。上皮混合物等の者が含んで有ります、然し此に一利あれば一害と云道理を免れざるものにて、

此の唾液中に沈澱性と云ものが有りて、此の沈澱性物が、能く齒の根に附着するもので御座ひます、之を俗に齒搵と申しますが、此齒搵が澤山に齒根に附きますと齒齦及齒根に大害を及ぼす而已ならず、唾液も亦之が爲めに幾分の不良を招き。且つ嗅くに堪ざる臭氣を釀すに至ります、先年或人が私しの所に參りて申すには、私の齒が此頃より大に痛み且つ動きますが、是れは如何なる譯けと尋ねますから、私は能く之を視ました上にて、是は所謂拔齒と云ふものですと申したら、其人は如何にも不滿足な顔色をして申すには、未だ年も寄らぬ私に拔齒のある氣遣はない、診察違ひではありませんかと云れて、私も大きに困りましたとがありましたが、併し怪むべきでも御座ひません、何となれば我が邦の人々は、年が老ると齒か拔けるものと思ふて居りますから、斯く反悶を起したので、御座ひましよう、一躰造物主は、さう云樣に拵いたものではありません、人間の命のあるかぎりは、物を咀嚼するとが、十分出來る樣に、拵ひたもので御座ひます、然るに人々充分の注意を怠りて、沈澱物が、齒根に附着しても搆はず置くから、自然に齒が弱り咀嚼するとも出來ないので御座ひます、そこで八十年や百年迄も生きべき壽命の人も亦咀嚼不充分よりして胃病を釀し、次で身躰を疲らし、遂に遺憾にも無理倒れに、倒れてしまいます、或る外國人などの申すには、胃病は一に日本病だと云ふ位ゐに思ふて居ると云とですが、斯云はるゝも何から源因して來ると申せば、我が國人は一向に齒のとに注意がないからでしよう、其れ故胃病や拔齒の患いが常に絶へません斗りでは御座ひません、又虫齒の患いも御座ひます、扨此の虫齒の源因も、種々御座ひまして化學的より申せば、食物が酸化して齒に穴を穿け、又器械的とて、咀嚼の間に

砂石を嚙み、或は他物に觸れ當りて、其部分が欠損して腐蝕を醸す等のヿが、有りますけれども、其大體の根元を推せば、重に齒の掃除の不行屆より拔齒や虫齒の患に罹る者は十に八九で御座ひますから、皆樣に於ても御注意御專一で御座ひます、然し大人に成てからと云より、寧ろ小供の時分より、御注意あるは、尤も肝要で御座ひますから、御案內の通り、小供の時に茄子齒とか、味噌齒とか申して、齒の生へ換るとき、多分に齒齦の內外にそけ出るもので御座ひます、俗に之を八重齒とて甚だ醜きものですが是も矢張治療時期を忘るより生じます、取分け七八才の小供が一度齒が痛めば泣きながらも醫者に見せず、又物を喰ふときは、鵜呑に呑み適ま少し固ひ物を嚙めば、直ぐに痛を起すの恐があるから、始終嚙むヿをせざる故、前申す通り、胃病を起します、夫れより引きつゞき、色々の病を醸す樣になります、其故必要なる唾液も著しき効用を呈する能はずして、其沈澱性物の齒根に附着し、齒鹽と化して、偏へに虫齒や拔齒を促すの害のみを殘す樣に思ひます、そこで大人小供に論なく、一ヶ年に一回か、二回は、是非齒科醫の、診察を受けて、其害たる齒鹽を掃除して、必要なる唾液の効能を全くして、貰はなければなりませんが、別けて御子樣を持て入らしやる方々は、尤も此に御注意肝要と存します、斯く申せば皆樣方は吾が田に水を引くとの、思召もありましようが、決して左樣なる精神では御座ひません、最初申し上たる通り、幹事さんの御依賴、遂ひ辭退も叶はざれば止むヿなく、私の兼て從事致せし所の業に付、聊か實地の經驗を申し上げて、皆樣と共に保齒の健全を計り、傍ら天與の壽を安全に終へんヿを、希望致しまする故、如此申述たので御座ひます、各位願くは御諒察あらんヿを

産婦と蓐婦の養生（七號の續）

櫻井郁次郎君

産室に就て是より御話します、加何なる家でも産室は勝手の次の間と云ふ様な暗ひ所で、騒敷所ですが是れは餘り宜しい事ではありません、成る可く産部屋は、空氣の流通も宜敷（と云つて風の通ると云ふ譯では無い）餘り狹くない方が宜しい、狹ひと申て働くのに不都合です、光線の能く徹る事の出る部屋で、日中光線の徹る部屋は夜分に大層快きもので、冬なれば煖かくなる、然るに我國の産室は、皆冬は寒く、夏は暑く、薄闇くして狹ひ、甚だ不都合になつて居ります、産所とか申して、我國では古くより行なはれて居るもので、彦火々出見尊が豐玉姫の爲めに鵜羽を以て産舍を作つたと申す事がある、故に別に産所を拵へても宜しいものだ、併しながら部屋の位置はなるべく靜の所が宜しい

産を致す所の床を産床と申します、如何なるものが最も適當かと云へば、西洋形の寢臺が一番宜しい、けれども如何なる家でも寢臺が備へて在ると申す譯には參りません、故に普通の布團の上で致しますがそれでも宜しい、扨床をとる場所に就て何處が宜しいか撰ばなければならない、十疊敷とか十二疊の部屋とか其の中ちで何處に床を拵へて宜しいか、先づ坐敷の中央よりは少し端じに依つた方が宜しい、併し壁に附ては往けません、又人の出這入りする壁の際とか、窓の下杯は宜敷ありません、ところが中等以下の者が産を爲る所を見れば、中々然うは往かん座敷も勝手も一所で隨分氣の毒なのがあります、簞笥に足を踏み掛けイキムとか、氷柱炬燵櫓に釣る下がると云ふ様な、色々人の位置に依りて趣が違いますから、一概に極めて申す譯には參りませんが、先

ず床をとるに就ての必要は、産婆に聞くが宜しい、併し産婆が前々から附ては居られませんで、夜る夜中に腹が痛ひソラ婆さんと云ふて居る間に、家の者が遽てゝ床を拵へる樣なものだから、前以て其の位の注意はなければならん、兎に角産に就ては不潔物で他を汚さない樣に注意しなければならん、故にゴム引きの布とか（人力車の幌に用ふ）若しくは桐油紙杯を以て防ぎと致します、我國の習慣では薦にボロ位で致しますがコハ甚はだ亂暴の至りと存じます、且つゴム引布又は桐油紙を二枚程準備するが宜しい一枚は産の時に用ひ、一枚は産後に敷更へるのです昔しから好く「居直り」と申して床を直すのが一般の風習だが、私は其の樣な事をせずとも宜しいと思ひます、奇麗に掃除の出きる樣にして、跡に敷き更へるからソレで宜しい、居直りの爲めに血暈と申して眩暈甚敷醫者の力でも之を療す事の出きぬ程の病となり、從て子宮の位置も變ずるから産後は成る可く安らかにするが肝要で、決して居直りを爲すには及びません

床のとり方は、一躰上み高く下も低く、頭は高く腰を低くなる樣にする、是れは産婦の云ふ所に從て作るが宜しい、最う少し高くとか低くとか極はめて産婦の快きを主とする事で、産婆が斯う云つたとか醫者が斯う云つたからとか申す譯には參りません、其の邊の注意も一つ肝要です

我國では一般に座産の風で、是れは日本國中一般と云ふても宜しい位です、併し歐羅巴の文物移り來るに從ひ、座産の風俗は變じて臥産と云ふ事になりました、今迄日本では産と云ふものは踞でしなければ出きぬものと思ふたが故に、老人杯は「聞けば寢て産をしたさうだが飛んだ事だ」と怪しむ位であるか、併しながら寢て産をした方が座てするよりも遙かに

Digitized by Google　Original from UNIVERSITY OF MICHIGAN

益も有り優つて居ります、我國の樣に座産とすれば如何なる害が有るか、餘りイキミが強く懸ります、且つ踞で居つてイキムから或は後部に疵が着くと云樣な事がある、段々調べて見ますると座産に依て疵を受けた者が日本には非常に多い、西洋の如くに横になつて産をすれば其の樣な憂ひも無く、極はめて穩かにしてあるから、脫血して眼を回す樣な事も無い、其の他不時の病を引き起す樣な事もない、併しなから時と場合とに依ては強ち座て居るが惡るいと云ふ事はない、腹の力が足りない時は、寢て居るのを殊更に起す樣な事があります。

産婦の衣服の事　産婦の衣服は寒く無く暑く無くと云ふのが最も宜しいので、其の外身躰を緊敷締る樣な事は宜しく無い、ボタン杯は餘り宜しくない、被覆すべきものは成る可く輕便の物で、大きな夜具を用ひる杯は扱ふ上に取つて不都合です、先つ小掻巻位が宜しい、殊に第一期の末にあれば身躰に熱を加へ發汗します、此の際餘り上へに大きな物を掛ければ却て疲勞を增す樣な事がある、故に成る可く注意して汗でも出樣としたらば涼やかにして遣るが宜しい衣服には別に申す事は無い。

飮食物の事　産の最も初め痛みの強くならない時に隨意の食物を與るが宜しい（消化の惡るい物は餘り宜敷も無いが）又飮み物も同樣で、湯でも、麥湯でも、茶でも、水でも、乃至牛乳でも、欲しき物があらば與へて少しも差支ない。

扨産には三ツの時が有ると申したが、總て分娩の間は精神の感動避けると云ふ事が肝要です、哀しき事でも、憤ふる事でも、喜ぶ事でも、極はめて感動し易きものである、私が是れ迄經驗したる處に依れば感動に因て陣痛が不規則にある、産婆杯が申す陣痛異常と云ふ事になります、中にも微弱と云ふ事があ

る、今迄非常に痛んだのが抜け失せてトンと痛みが無くなる、之を微弱と申します、時として其の微弱が強くあるのを、眠り腰と云ふて、時々痛みが來たかと思へば眠氣を催す、三日も四日も懸るので、悉く精神の感動よりと云ふ理由でも有りますまいが、重に是れが原因となります、又痙攣性の陣痛抔と云ふがある、是れは一部分の痛みは非常に強く、其の他の部分は痛みが無いのです、又痙攣によりて癲癇に似たる病を起す事もある、右の如き次第であるから、産に用の無き時は話し聲が産室に聞へぬ樣にするのが必要です、産婦の世話をして居る周圍の人は、産婦の精神を感動する樣な事を聞かせてはならん、又産婆の不注意よりして何處の孰れさんは難産したとか、産婦に聞かせて産婦を感動せしめ、遂に陣痛異常になる事が有る。

以上は第一期の御話したが、此の時は産婆は注意して厠に登る事を許さない、何う云ふものか産前には兎角厠に通ひたがるもので便の通じる氣味合で便所にて直ちに出産すると云ふ樣な過ちが起る、是れは初産の婦人に就て注意すべき事です、又初産婦は破水と云ふ事を注意するのが肝要で、如何なる工合に痛みが強くなり、其の末には斯く〳〵になると言い聞かせて置かなければならん、始めてゞすと驚ろく事があるが、靜かに聞けば腸でも破れたかとでも思ふ程の音がする、故に痛みが強くあつてから數時間の後ちは破水があるから、と理解して教へて置くが宜しい、且つ破水に就て注意すべきは、我國では破水と出産と一所位の事が多いが、西洋の書物を讀めば中々其の間が長い一體日本人の産は易いから破水後直ちに生れる樣になるので、此の邊は豫め注意して置くが宜しい。

陣痛と申す事は前にも述べた通り極まりのある痛み

で、最初十五分位痛みが有つて又良くなる、十分時間位痛みが起る、又去る、遂に五分時間と云ふ樣に痛みの間が短くなります、故に此の規則正しき痛みなればコハ産の前兆と見做します、已に前兆と怕ればソレ／＼準備を致す事が必要で、先づ第一着に湯を沸す事です、手を洗ふにも、産湯を遣ふにも、皆湯です、幾らも世間にあるが、若い人達の居る家に行つて見ますと最初五六時間の後ちに至つて湯をと云ふても、まだ湯は沸しませんと云ふ樣の事がある隨分年少き人杯には有り勝ちの事で甚だしきは水で産湯を遣はせる譯にも往きませんで、隣から湯を貰うと云ふ樣な事がある、是等は前以て承知して居らなければなりません。

又序に御話し申しましやう、それは産婆の處に使を遣る事だが、使と云ふ者は必ず一人豫め定めて置く方が宜しい、一躰産婆の家は至つて奥の方に引込んで辻の稻荷樣から三軒目麾溜の隣抔と云ふ分り惡くいのだから、慣れない人には見付りません、殊に深更なぞは故に陣痛が始りたらば、定めの使が走る、尤産婆の家は蚫貝が釣るして有つて夜分でもピカリとする、是が目印となるのだが何番地某と名乘て使者の主意を詳にすべし、又使の者の注意は産婆の家に行きて必ず同伴して來ると云ふ事です、左も無いと自分の内でさへ戸惑ひする人もあるから夜分杯殊耳に水で何處から迎ひに來たかも分らず、途方もなき間違つた家に參り、遂に出産の間に合はぬ事が屡々有る故に、産婆の使も餘程六かしいもので、最初の注意が肝心です、斯んな事迄發生の中に加へては可笑いが、是れも注意の一つです。

まだ産を爲る迄には少し隙間どれさうですから今日は是れで御免を蒙りませう、

○小兒の營養　（五月四日例會）

緒方正規君講演

只今幹事より御斷しわりました通り今日は弘田君が出らるゝ筈の所急に差支へて私が替へ玉に出たのですが匆卒で充分調べが出來ませんでしたが極く僅の間御耳を拜借して私の思ふ所を述べませうと思ひます。私の演題は揭けて在ります通り、子供の營養、に就て少し述べ樣と思ひます。

殊に御出なさるゝ貴婦人令孃方に於ては既に或はおつ親となッて子供を御育てになッた方も在ふし又是れから子供衆を御育てなさらなければならぬ御方も在りませうが何れにしても子供の養ひ方を御斷しするは必要であると思ひます。尤も先刻色川君が御斷しわつた通り右の演說は既に有りしも知らず若し有て之と重複しましたならば何卒御宥恕を願ます。

一躰人民の健康或は不健康なるは直に小兒の育て方に依り其小兒を養育するに適當の食物を與へ充分其營養を取らしめたるや否やと云ふ事に關係するので有ります。小兒の一歲未滿のときに充分なる營養を供せざる時は大きくなッても健然强壯の者となる事は出來ません。且つ一歲未滿小兒育て方は元より男子に出來る事では無く御母樣でなければ出來ないのみならず、其前の事に立ち昇ッて考へて見れば我々の最初出來始めは極めて少さい者にて我々の目でも見へ無い程の卵です其卵の大さを謂へば恰度私の髮の毛を八ッ割にした位の者が即ち其卵の大さです。夫れが生れる時になると量目にすれば五斤以上の重みを具へ大くなッて生れる、夫れは皆婦人方が自身の血液を與へて大きくしたのに違いは有りません。是より子供が生れてから滿一歲位になる迄食物營養の御話しを少し致そうと思ひます。

貴女方も御承知の通り子供が生れて直ぐ養ひを附け

るには乳でなければなりません併し乳を與ふるに今では二た通り有ります、則ち第一の養ひ方は天然の養ひ方で、第二は人工の養ひ方です。天然の養ひ方と云ふのは如何ある者かと云へば天から與へられたる則ち自然に備はる所の母自らの乳を與ゆる事です、第二は母の乳で無く、動物の乳で即ち牛とか馬とか驢馬とか云ふ者の乳を與へて育てる事であります、日本では近頃牛乳を飲み用ゆる者が多くありまして我勝ちに牛乳々々と云ふ世の中ですが併し日本では未だ牛乳を以て養ふたる充分の統計と云ふ者は有りません、牛乳を以て育つた所の子供は何の位い好く生長するか但しは成長しない歟又牛乳を以て養つた者は何割位い死ぬか生きるか其統計が確かに御座いません又母親の乳を以て育つたものが何の位い好く育つか何の位い病人が出來るか何の位い死ぬかと云ふの統計も御座いませんから假りに歐羅巴の統計に依つてお話し仕ますれば歐羅巴で衛生學者が申すには百年以來歐羅巴は誠に憂ふべき有様に立ち入つたと、夫れは外でもありません則ち子供を育てるのに母親が乳を與へると云ふ事が次第に減じて人工の養ひ方を以て育て誠に歎くべき事で有ると申しました。故に歐羅巴では天然の養育方は誠に少なくなりし事て有ります。

そこで好く調べて見ますと母親の乳を以て養ふ程に人工の養ひ方では子供が育ちません、病氣に罹るのも實に多く、又強壯になる事も母親の乳には及びません。獨逸の或る都府にて拵へた統計に據れば一年未滿の子供が百人死する中母親の乳を以て養育するものは十八人にして其殘り八十二人は他の動物の乳を以て育てたる者で有ました、是れを比較しますれば母の乳を以て養ふた者が一人死ぬ時は牛乳其外で養ふた者の死ぬのは四人と云ふ割になります。夫れ

Digitized by Google　Original from UNIVERSITY OF MICHIGAN

は何う云ふ譯てある歟と云ふに則ち小兒は消化機の病氣に罹る事が多いであります。又母の乳と乳母の乳とは何うて有るかと云ふに乳母の乳は元より牛乳よりは宜しいが決して母乳には及びません、乳は同性分を有すれども、何れ子を育てる注意が届きませんものと見へるから乳母の乳は牛乳と生母の乳との中間に在るもので御座います故に子供を養ふには天然の養育即ち其母乳を與へて養育するに優した事はありません。

母乳の反應を試驗紙にて調べますればアルカリー性にして牛乳は兩性の反應を呈します、而して母乳には砂糖の分量牛乳よりも多く、脂肪は牛乳よりも少なしとす、又假令牛乳に砂糖を入れ水を加へて成たけ母乳に近き樣に致しても其乳は母乳には及ばないと云ふとは第一牛乳あれば之れを絞り取る器械が不潔なるときは其乳速に腐敗し、又哺乳器械の吸口が固いときには子供の柔弱ある口中粘膜を傷け又溫度に至りては如何に寒暖計を以て試驗の上與へても飲む中には溫度が高低し易い故に充分躰溫に同じき乳を與ふると云ふ事は出來ません。

乳は小兒が生れたときから何の位いの時間を置きて飲せれば宜しいかと云ふに是れは日本でも西洋でも同じ事の仕來りが有ります、日本では赤兒にて暫時は母の乳を飲せずに所謂マクリある者を飲せ西洋にても「カミツレ」と云ふ藥の用ゆるものがあります。日本で謂ひますにはマクリを飲ますれば腸の中にある不潔物などを下して仕舞ますから飲ませる方が宜しいと云ふ事を申して居るものも、併し四日も五日も飲ませるには及ばん生れた始め僅かの間飲ませて於て其後母の乳を與へるが宜しい、日本では一日だけ乳を飲ませすに置く風習が有りますが、併し小兒に生湯を使ッて遣ッて一度充分に眠り覺めるに至

りては乳を飲ませて差支へは御座いません。
又母の乳は産後直ちに出ない事が御座います、其時は僅かの間牛の乳を以て與へても害は有りません、併し是れを與ふるにも水を割て與へなければなりません、其割方は牛乳一分に水三分位いを入れて、是れに少し砂糖を加へるのです。
乳を飲ませる度數は如何にと云へば、初日には三回乃至四回にて足りとす、二日目も三回位い、三日目より九日目位い迄は七回づゝ晝夜に飲ませるが宜しい、其次は三時間毎に飲せるか但しは又二時間半毎に飲ませるが宜うござります。
乳の分量は最も初には極て少量にして一回に二茶匙位いの者でありて、二日目からは一回チリレンゲに一杯位い飲ませる事となります。夫れから後になりまして五ヶ月頃則ち百五十日位いになれば一回にチリレンゲを以て量れば七杯位いは飲みます、又乳を飲ませるには成るべく時間を定めて置いて泣く度に飲ませるのは宜しくありません如何となれば小兒の空腹の爲めにのみ泣くに非すして其外に不快の事ありて泣き又之に因りて肺臓の體操を營むを以てなり。
乳を飲んで居る時間は何の位いと云へば大概一度乳を飲むに十五分要ります、而して乳を飲ませてから酷く動してはありませんと云ふは大人の胃袋で有りますれば則ち大きな袋が横樣になつて下かつて居りますが、子供のハ丁度徳利就中燗徳利見た樣な形ちの胃袋で御座いますから、僅か動しても水が溢ぼれる如く乳を容易く吐出しまする故に成るべく身體を動かさぬやうに注意仕なければなりません。
乳を飲ませたる後は水を以て乳首を洗ふが宜しうござります之を忘れてハ往けません、左も無くば手巾を水に浸して以て其乳首を拭ふべし、兎に角乳首に附着て居る乳汁を清潔にしなければ其乳汁が附着い

て居れば母子共に衛生上の害になります、
乳を飲ませる時期乳に腫物が出來るのハ乳首を強く吸ふとに因るか或は子供の歯が障わりて疵が出來る時にはゴムの薄い袋をはめて飲ませるが宜しい左すれば決して其等の虞れは御座いません。
乳を飲ませる時分には、母親は強き酒濃き茶或は珈琲などを用いてはいけません、又未熟の菓物を食べては成りません。日本では小兒に乳を飲ませる時日か大變長きに、西洋にては長くして滿一ヶ年位いの者にて、大概は九ヶ月から十ヶ月位迄て乳を離します。併し日本では二歳迄も三歳迄も、甚しきに至りてハ既に四五歳に至る迄飲ませる者が有ります、而して何時乳を離して宜しいかと云ふに充分歯も生へて食物も食べらるゝ時分になれば元より母の乳を飲ませるには及びません、故に歐羅巴の風習よりも少しは長く飲ませても宜しいが、日本程長く飲ませるには決して及びません。乳を離す自分は暑き時は往けません、若し暑き時に乳離れをすれば直きに消化機に病が起り或は救ふべからざるにも至りますから夫れは御注意せねばなりません。且つ乳を離す時には牛乳を以て換へ又其外の者假令ば雞卵の黄身に重湯などをまぜて暫時の間用い追々他の食物に轉せしむべし。
若し母親の乳を用ゆるのが出來ぬときには乳母の乳を用ゆべし之れ母乳に及ばずと雖とも牛乳より優れりとす乳母を擇むには其出産の時日を調ふのみならず又病氣の有る無しを能く調べて其上にも精密の調べは醫者に檢査して貰はなければなりません又乳母の乳と母の乳とは同しく人乳なりと雖とも乳の成分は食物の良し否しに大變關係が有り若し食物が宜しければ其乳の成分は最も宜しき者であります。併しながら若し乳母も無く母の乳も無く、何れも與へる

Digitized by Google　Original from UNIVERSITY OF MICHIGAN

事が出來ませんときは、人工の營養法を以て養はなければありません。

人工の營養法に就ては其與ふる處の食物は可及的人の乳に類似したる者でなければありません則ち其乳の分量と成分とが母乳に異なる者で有ッては往けません、其乳の温度は三十七度位いでなければならない、又乳を與へるには其器械が一度にドット出て仕舞ッては往けません、矢張人の乳房から乳の出るやうに追々に絞り取ると云ふ位でなければいけません。

（以下次號）

本會錄事（自明治廿二年九月 至仝十一月）

本會事務所を麴町區富士見町二丁目一番地に移す

○九月總集會　九月廿一日午後零時總集會を神田一ツ橋大學講義室に開く此日や幸に天氣晴朗なれば來會百五十餘名實に盛會なりき先つ初に役員の改選を行ひしに左の諸氏當選せられたり

會長	加藤鈴子
副會長	南部隈子
幹事	村岡久野子
仝	濱尾作子
仝	荻野吟子
仝	長與園子
仝	三宅藤子
仝	細川靜子
仝	岡田美壽子

三宅、岡田の二氏辭任せられたるに付次點者榊幸子氏太田繼子氏二氏任選せられたり

右終て先つ加藤弘之君（衛生の大切なること）を述べられ次に醫學士芳賀榮二郎君（創傷の話）次に醫學士坪井次郎君（庖廚衛生）講演せられ又長與專齋君衛生に付ての注意を最と懇切に談話せられたり終て宮本仲君今回の各地水難罹災者の慘狀を說き宜しく義捐すべき旨を述べられたり

○九月廿三日　本會々員一同に衛生試驗所參觀を許さる來觀者八十餘名坪井醫學士及ひ仝所技手村井氏の二君懇切に參考品に就き一々說明せられ大に衛生上の注意と滿足とを與へられたり

○十月例會　十月五日例會を麹町區永田町華族女學校に開く來會者百五十餘名午後二時より色川圀士君(身躰を美麗にするの法)次に古川榮君(乳兒衛生法)宮本仲君(嬰兒に對して牛乳の良否)を懇切に講話せられ會員皆滿足を表して散會せしは午後五時三十分あり

○十一月懇親會　十一月二日午前九時より秋期懇親會を小石川區砲兵本廠内後樂園に開けり此日や天氣晴朗秋色拭ふか如く加ふるに庭園幽邃霜葉燦爛來會者をして大に滿足せしめたり午前十時奏樂あり正午一同喫飯す午後一時清樂の合奏あり畢て會員一同思々に手を携へて園中を徜徉するあり或は骨牌を鬪はすあり其他投毬福引等の餘興あり其間又清樂の合奏ありて各十分の快を盡して午後五時全く解散せり又此日宮本仲君亦一場の演説あり來會者は無慮三百餘名中には外國貴婦人をも數名見受けたり

○本會にて各地方水難罹災者の爲に義捐金を募りしに其集金高は總計二十一圓五十錢にして該金は京橋區尾張町日報社に配送方を依賴せり義捐せし諸氏左の如し

小林久子君、宮本仲君、加藤鈴子君、樫村永子君、明石かゑ子君、青木安子君、石崎顯子君、南部隈子君、濱尾作子君、村岡久野子君、細川靜子君、榊幸子君、加藤恒子君、岩橋時子君、土方龜子君、神山政子君、濱田捨子君、本田せん子君、鹽谷つね子君、三谷彌一郎君、南部さき子君、野邊地たき子君、平田よし子君、山田久米子君、福羽貞子君、羽田三緒子君、長澤美津子君、中村春子君、和田八重子君、木子よね子君、太田幾子君、利根川秀子君、片山龜子君、馬渡玉子君、米田信子君、岡田美壽子君、兩角照子君、高橋榮子君、厚東雪子君、西川龜子君外二名

○十一月二日懇親會の際本會へ金品寄贈を辱ふせし方々を左に列記し玆に聊か謝意を表す

金三圓　榊　俶君
金三圓　長與園子君
金一圓　加藤照麿君
金一圓五十錢　鹽谷常子君
柿一樽　大澤作子君

自廿二年九月至同十一月入會者姓名宿所

○終身會員

高嶋庫子　神奈川縣大網山

○通常會員

三宅いし子　麹町區下六番町三十八番地
岩橋時子　芝區濱松町一丁目十番地
加藤恒子　麹町區上二番町四十四番地
市田しか子　神田區小川町四十八番地
撫谷つね子　麹町區富士見町四丁目十二番地
相磯政子　麹町區中六番町五番地
石井文子　赤坂區葵町三番地
石田國子　京橋區築地二丁目四番地
宇川てつ子　牛込區北町三十番地
後藤ゆき子　芝區高輪
川田小一郎氏令閨　牛込區新小川町
北澤信子　麹町區中六番町九番地
市岡幸子　神田區三河町四丁目
廣瀬りき子　麹町區三番町十二番地
楠瀬切　高知縣土佐國高知市中新町七十一番地
白川かず子　麹町區平河町五丁目拾五番地
河本瓶子　芝區愛宕町二丁目五番地
橋口文子　麻布區永坂一番地香蘭女學校
ミス、スノーデン　仝
渡邊みつ子　芝公園地五十一號
高山愛子　芝區伊皿子町七十五番地
高木鎌子　神田區錦町二丁目一番地
有賀勝子　麹町區富士見町五丁目九番地
三宅みち子　四谷左門町六十一番地
中濱よし子　市ヶ谷加賀町二丁目拾四番地
拡田綜子　芝區慈惠病院内
鈴木貞子　同
石井鈴子　同
田村りゑ子　小石川區江戸川町一番地

男贊成員

椰野直　新潟縣
遠山椿吉　本郷區森木町一丁目六番地

合計卅二人

○本年自九月至十一月三ヶ月退會者及ヒ死去

逸見はる子　宇川盛三郎　最上糸子
九里兼子(死去)　山岸光子　雨宮速子
堀内松次郎　首藤きち子(死去)　長谷川はる子

合計九人

○九月以降本會へ寄贈になりたる雜誌書籍左の如し

三重衛生會雜誌（自二十三號至二十五號）三冊　三重衛生支會
埼玉衛生會雜誌（自五十六號至五十八號）三冊　埼玉衛生支會
產科婦人科研究會月報（自六號至七號）二冊　產科婦人科研究會
大日本婦人教育會雜誌（自八號至十八號）三冊　大日本婦人教育會
護國の柝（自十五號至十六號）二冊　北海禁會
愛媛衛生會雜誌（自十七號至十九號）三冊　愛媛衛生支會
躰育美貌論　一部　島村商店
はゝのつとめ　二冊　三島通良
日洲衛生會報告　一冊　日洲衛生會
小兒科雜誌　一冊　錦春社

●會員諸君に望む

本會設立以來次第に盛運に赴き今日にては無慮三百名の會員と一支會の設立を見るに至りしも唯毎月一回の講談會と一年四册の雜誌にては到底實際の効益を社會に普及するに足らず勿論雜誌を增刊して隔月或は毎月の發行とし且つ衣食住育兒看病等に就て實際の事業を興し廣く公衆の幸福平和を增進せんとこそ本會の素志ありとは云へ會運猶微弱にして其機に至らず常に甚だ遺憾とする處なり、會員諸君は固より衞生の必要を知り給はん從つて婦人衞生會の事業の効益あることを認め其實行と普及とを希望せらるゝならん請ふ自今一層奮勵して各々出來得る丈け同志を勸誘し衆力を結合せられよさらば次第に勢運盛に基礎堅まり本會の事業を擴張する又難きにあらざるべし、社會の事總べて單身孤力を以て成就するものにあらず殊に本會は一個人の私有にあらずして會員諸君の衆合體あり故に本會の事業は悉く會員諸君の熱心に依賴せざるべからざるなり

私立 大日本婦人衞生會

廣告

諸先生方よりの原稿澤山有之候得共何分紙數に限りあると故一時に掲載するを得ず順次に掲載致候間左様御承知被下度候

編輯掛

會員諸君にして御轉居の際何等の御報知なき方多く雜誌配達其他種々差支へ甚不都合に候間御移動の際に必ず御報知被下度候

會費御不納の方は至急事務所まで御送附被下度爲替は總べて芝口郵便局宛に願上候

雜誌不着之節は速に御報知に預り度取調の上直に郵送すべし

事務掛

○本會の事業に付き事務に付き御心付の事有之候はゞ御遠慮なく御申越被下度御書面にても御口上にてもどちらにても宜敷く御座候

私立 大日本婦人衞生會

Digitized by Google
Original from UNIVERSITY OF MICHIGAN

前中央衛生會々長 従三位 細川潤次郎君題辭
衛生局長 従四位 長與專齋君序文
侍醫ドクトル 萩原三圭君校正
衛生局員醫師 渡 忠純君譯稿

衛生教育 婦嬰鑑 一名 母の教

上編 正價金三十錢 中編下編近刻

此書の原本ハ索遜國王陛下の侍醫ドクトル安門氏の著述にして。婦人小兒の道に志篤き萩原先生が三年前彼地に在りし時既に第二十七回の出板を見られしに今又此第二十九板を得られたるを以ても。需用の斷へざる稀有の良書たるを知るべし。書中說く所ハ婦人の婚姻に始まり。姙娠中の養生。出產前後の注意。赤兒の看護養育より。漸々生長して幼穉園に到るまでの間。身躰の衛生ハ勿論。精神教育の端緒をも正しく詳にせり。然れバ之を婦人必讀といふも可ならん乎。文章ハ平假名付にして讀やすく解しやすし。

男子も亦一讀せバ全家の都合に於て參考となるべし。萩原先生ハ筆執る暇の乏しきにも拘らず此書の世に擴がらんことを望まれしが渡先生の譯稿を供へて校正を乞ふと細川長與兩公の賛成とに由て深更剪燭の勞を取られしとなり

弊舗等發兌の榮を蒙りて爰に之を廣告す

馬喰町 島村利助
本郷春木町 島村支店
日本橋通 丸善店

私立大日本婦人衛生會事務所
東京麹町區富士見町二丁目一番地女學雜誌社内
本會雜誌編纂委員 荻野ぎん子 鈴木まさ子

發行所 東京麹町區富士見町二丁目一番地 私立大日本婦人衛生會
編輯兼發行人 東京麹町區富士見町二丁目一番地 嚴本善治
印刷人 東京芝區源助町拾壹番地寄留 森田豐

…省認可
印刷所 東京京橋區西紺屋町廿六七番地秀英舍